

ラファで爆発、イスラエル将校負傷

パレスチナ・クロニクル・スタッフ著、脇浜義明訳 パレスチナ・クロニクル、アナドル通信、2025年12月25日



ハマス最高幹部マフムード・マルダウイ(Photo: via social media)

ハマスはラファでの爆発への関与を否定し、声明で「不発弾は占領軍自身が仕掛けたものだ」と述べた。

イスラエル占領軍は、24日ラファで爆発が起き、将校1人が負傷したと発表し、ネタニヤフ首相はハマスの犯行だと言った。ハマスは直ちに声明を出し、爆発は「パレスチナ人が誰もいない」イスラエル軍が完全支配している場所で発生し、占領軍が放置していた不発弾の爆発によるもので、ハマスには責任がないと表明した。それより、イスラエルの停戦違反攻撃を止める圧力をイスラエルにかけるように、国際社会に求めた。

「我々は前々からこの地域やその他の地域の不発弾について警告してきた」と述べ、停戦発効後、イスラエルが不発弾処理の責任を負うべきで、ハマスには責任がないと言った。爆発して将校を負傷させた不発弾はイスラエル軍が設置したものであると主張した。さらに、ハマスは、仲介者に、イスラエルに停戦合意の完全履行を迫り、「口実をでっち上げて停戦違反行為をエスカレーションする」イスラエルを止めよと、これまで何度も繰り返してきた要請を改めて行った。

ハマス幹部のマフムード・マルダウイは、爆発は不発弾の爆発である可能性が高いと、X投稿で述べ、爆発はパレスチナ人が立ち入ることができないイスラエル軍支配地で起きたと指摘した。

イスラエルは停戦合意に署名した後も繰り返し停戦違反攻撃を行い、ガザ政府メディア・オフィスによると、停戦発効以来イスラエルの攻撃で少なくとも411人が死亡し、1112人が負傷した。2023年10月以降の犠牲者は、71,000人以上が死亡、171,000人以上が負傷し、その多くは女性と子どもである。

